

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	番組制作 1	
科目基礎情報					
開設学科	放送芸術科	コース名		開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	60時間
単位数	4単位			授業形態	講義
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。				
担当教員情報					
担当教員	高沢敦博		実務経験の有無・職種	有 映像制作	
学習目的					
映画・映像評論家とならずとも、製作者として正しい映像の見識を持ち、コンテンツを「主題」「脚本」「演出」「撮影技術」「演技」と視点を複数持ち鑑賞できるスキルを持つことを目的とする。					
到達目標					
学生が特に＜実習＞において学ぶ技術は、実際どういった場面で、どのように生かせるのか、より視覚的なアプローチで示す授業である。学生は様々な映画、TV番組、映像を解説付きで鑑賞し、撮影技法、演出方法を一体的に学ぶことになる。 映像から、それはどのようにどこから撮影されているかを想像し、理解することを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	この授業では、個人ワークやグループワークを採り入れる。特にグループワークでは他人に気を遣い過ぎず、まず他人を傷つけることなく自分の意見を上手に伝えること、さらに相手の話をきちんと最後まで聞き、すぐに否定せず理解することを促す。そしてチームの意見としてまとめる努力をする。決して答えがあるわけではない映画を使い、習慣づけることを狙いとする。				
注意点	この授業では言葉を発することを促し、思っていること・意見を積極的に言えるようにし、多角的なモノの見方を学ぶので、学生同士の会話のある程度許容する。教員は、学生の勇気をもって発言した内容を否定しない。まず受け止め肯定し、いい点を褒める。次に反対意見、違う意見を求め、対話をリードする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	0%			
	小テスト	0%			
	レポート	40%	着眼点のユニークさと論理性、リスペクトしているかを評価する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	40%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	イマジナリーラインとは		イマジナリーラインの意味を掴む。 テレビが伝える裏側を考える		
2回	映像に隠された主題を見分ける		丁寧に説明されないことを想像して解明する ：グループワーク		
3回	1950年代の映画と技法		現代よりも技術、機材が劣る中での表現を学ぶ		
4回	設定の重要性		2時間以内の起承転結と設定の重要性を理解する		
5回	モンタージュ理論		＜編集＞＜モンタージュ＞の技法の重要性を学ぶ		
6回	モンタージュ理論（2）		20世紀の戦争映画を通してモンタージュの実際を考える		
7回	撮影・照明技術		画面の色合いと撮影現場とのリンクを取る。		
8回	撮影技術（2）		長回し映像、ワンショット映像の効果と合成技術を理解する		
9回	撮影技術（3）映画監督の監督性		監督の個性がどのように画面に反映しているのかを考える		
10回	脚本と演出		カメラを置く位置による役者の心情の表現		
11回	映像に隠された主題を見分ける(2)		丁寧に説明されないことを想像して解明する ：グループワーク		
12回	社会問題の扱い方		ドキュメンタリーではない社会問題の扱い方法を考える		
13回	巨匠の映画術		映画史に残る巨匠たちのノウハウを言語化する		
14回	ファンタジーの表現法		1950年代日本映画における「夢」の表現		
15回	ファンタジーの表現法(2)		1999年洋画における「夢」の表現		